

紹介していただくやり方はありますか？

斎藤：それは可能でしょう。講演会の知見は患者さんに反映されやすいです。新しい薬を服用しているので理由を聞くと、講演会で聞いたから、ということもあり、患者さんの吸収力はいいと思います。

赤羽：初診時に SURF の話をされるだろうと、患者が予測しているだけでも違うと思います。

山中：肝友会は大阪にもあり、会長が知り合いです。

久保：大阪でも 800 人 1000 人すぐ集まります。たとえば、工藤教授が講演される最後に、SURF trial を全国でやっていますと紹介すればかなりインパクトはあると思います。

斎藤：東京の友の会も 300 人くらい集まります。

赤羽：例えば幕内先生が本をお書きになるというのはインパクトがあると思います。SURF について、一般向けの本です。赤字覚悟でも、本にするくらいで、とにかく宣伝が一番大事だと思います。初診～の行動では、皆さんの負担が大きいわりに効果が少ないと思います。

國土：肝炎の会など、ここにいらっしゃる先生方はいろんなところで講演されると思いますが、その度に是非、少しでも PR していただけるとありがたいです。HP の件、肝臓といれてヒットするようなよい方法はあるのでしょうか？

赤羽：開いて一番上のタスクバー、そのページのタイトルみたいところに肝臓がんという言葉が入っていることが大事。作った業者に注文をだすとよい。

國土：あとリンクをいっぱい貼るのが有効。肝臓学会など、推薦いただいた学会には、学会ホームページにリンクしていただけるようお願いする。各施設のホームページにリンクしていただきたい。東大の消化器内科と肝胆膵外科の HP にはリンクされている。やはり PR することが一番大事と思っています。

中山：ホームページの件に関して、肝臓がんの方は当科のホームページを見ていただいているようです。当科で SURF にリンクをはるようにしますので、他の先生にもお願いしたらよいと思います。

*インセンティブについて

NPO 日本臨床研究支援ユニットの早瀬茂さんを交え、インセンティブの可能性について、意見を交換した（詳細省略）。現時点で厚労省科研費をインセンティブ目的で使用することは不可能。他の手段がないかを事務局で検討し、いずれ報告することになった。

■その他

恵荘：コホートのほうは、治療が終わったあとの後づけの登録でも大丈夫でしょうか？

長谷川：はい、IC が取られていれば大丈夫です。

国土：12 月に次年度の厚労省科研費の継続申請がありますので、申請を認めていただければと思います。

(とくに異議なし)

また、RCT に症例を登録いただいた施設で、まだ研究分担者でない先生には是非この研究班に入っていただくということでよろしいでしょうか。

(とくに異議なし)

■今後の予定

国土：班会議は3月初め頃にやりたいと思います。またご案内しますので、よろしくお願いたします。症例検討会は班会議とは別に、主要な学会にあわせて、行いたいと思います。今日はいろいろな重要なお指摘をいただきましたので、事務局で出来ることを検討し、お伝えしたいと思います。今日はありがとうございました。

■日時：2010 年 3 月 9 日 (火) 15:00-16:30

■会場：日本外科学会事務局 会議室

■参加者 (敬称略：順不同)

研究代表者

東京大学：國土典宏

研究分担者

日本赤十字社医療センター：幕内雅敏

山梨県立中央病院：望月仁 (小俣政男代理)

東京大学：椎名秀一郎、松山裕、赤羽正章、長谷川潔

大阪市立大学：久保正二、河田則文、岩井秀司

大阪赤十字病院：恵荘裕嗣 (大崎往夫代理)

大阪府立成人病センター：山田晃正

九州大学：武富紹信 (前原喜彦代理)

東京医科歯科大学：有井滋樹

東京女子医大：斎藤明子

日本大学：中山壽之 (高山忠利代理)

国立がんセンター：小菅智男

京都大学：田浦康二郎 (上本伸二代理)

近畿大学：工藤正俊

明和病院：山中若樹

東邦大学：大塚由一郎 (金子弘真代理)、住野泰清

筑波大学：高橋一広 (大河内信弘代理)、福田邦明

信州大学：宮川眞一、一條哲也 (田中栄司代理)

金沢大学：高村博之 (太田哲生代理)、山下竜也 (金子周一代理)

徳島大学：居村暁 (島田光生代理)、玉木克佳

産業医大：山口幸二、原田大

熊本大学：石河隆敏 (馬場秀夫代理)、田中基彦 (佐々木裕代理)

■欠席者

東京大学：小池和彦、大橋靖雄、建石良介

九州大学：古藤和浩

■陪席者

東京大学：進藤潤一

日本臨床研究支援ユニット：早瀬茂、相田麗

■研究代表者挨拶

國土 (東京大学)：それでは定刻になりましたので SURF trial 第 3 回の班会議を始めさせていただきたいと思
います。最初に報告致しますが、おかげさまでもちまして厚生労働科研費の次年度継続の採択を得ることが
できました。みなさまのご協力の賜物と思います。

なんとか研究費の継続はできたのですが、症例登録促進についてはなかなか苦しんでいるところで、それが今日のメインの討議事項であります。それから今日は前回にくらべてずいぶんと出席者が多いとお気づきになったかと思いますが、ほぼ2倍の人数の先生方に来ていただいております。前回お話したかと思いますが、研究者の先生方になかなかインセンティブという形での提供が難しいということで、次年度からは1例以上症例登録のあった施設の先生方に研究分担者になっていただき研究費としてお配りするというのを考えております。次年度の研究費の申請の段階で研究分担者になることをご承諾いただいた先生方に今日は来ていただいております。それでは会議に移りたいと思います。

■事務関係の説明

長谷川(東京大学):まず事務的なことからご報告致します。年度末ですので、研究費についてお話致します。分担研究費につきましては各研究者20万円ということで消耗品としてお使いいただきました。次年度について、公布基準額は決まっていますので、それ次第ということになると思います。

■討議事項

国土:それでは討議事項に移りますが、長谷川の方からパワーポイントでプレゼンをさせていただきながら適宜ディスカッションをしたいと思います。途中で各施設の先生方に進捗状況と、どうすれば症例数を増やせるかの方策についてご意見を伺いたいと考えます。

長谷川:まず第1回の班会議以降の進捗状況についてお示ししたいと思います。対象、試験デザインにしましてはご存じのとおりでございます。

進捗状況ですが、参加施設自体は現時点で85施設。これは第2回の班会議以降変わっておりません。症例数についてはRCTは東大の4例を筆頭に全体で24例。コホートの方は全体で98例登録を頂いております。総数につきましては棒グラフにお示ししますとおり、RCTとコホート1:4くらいの割合で数は増えてきています。月別にみますと昨年の9月・10月くらいで各施設の倫理委員会を通ったとの連絡が多くございましたのでそれ以後の増加が期待される状況といった状況です。

現在の登録ペースは月あたり2-5例ですので、最低10例位のペースにならないと3年は厳しいというのが現実ではございます。

国土:600例の目標に対して達成率が4%ということで、まだまだ道のは険しいというのが現状であります。コホートの方は特に目標数はございませんが順調な伸びを示しております。

長谷川:では次に厚生労働科研費の継続申請の審査結果についてお示しいたします。評価点数は7点で継続可との評価をいただきました。ただコメントにつきましては、RCTの参加スピードが遅い点、登録症例について懸念するコメントが来ております。下線を引いた部分については事務局より正式回答を送っております。

国土:来年度の基準交付額はまだ決まっておられません。小菅先生、これはどのように・・・

小菅:普通は申請されたものに対して点数がつけられそれに掛け算をして決まることが多いです。何点以上であれば満額といった具合に。

國土：ありがとうございます。それではディスカッションに入る前に各研究分担者の先生方にご挨拶を兼ねて各施設の進捗状況をお話いただければと思います。まず司会を務めております研究代表者の國土、事務局の長谷川、サポートをしてもらっています当科の進藤です。

それではまず山中先生から一言ずつお願いしたいと思います。

山中（明和病院）：この第3回の班会議までにぜひ RCT を 1 例と想着ていまして、説明までした症例があるのですが結局 RFA をしてくれということになりまして、まだ 1 例もエントリーできていない状況にあります。なんとかまずは 1 例を達成したいと想着ております。

武富（九州大学）：前原の代理で参りました。RCT は 1 例で前回の班会議から変わっておりません。コホートが 1 例という状況です。

山中（明和病院）：よろしいでしょうか。1 週間か 2 週間前なんですけどコホートに 4 例目入れようと思つて担当医がエントリーしようと思つたら断られたと。理由は軽い造影剤のアレルギーがあるということだった。MRI でもよいということではなかつたでしょうか？

長谷川：RCT のプロトコールではエントリー前の的アック基準として、ヨードアレルギーがなく dynamic CT ができるということにしております。フォローの途中でアレルギーが出てきた場合は MR I でフォローしてもよいということにしていますが、エントリーの段階では dynamic CT です。コホートも RCT の適格基準に準じますので、それは入らないということになります。

國土：コホートは RCT とは違って遡って登録ができますので、各施設でよく症例を見ていただいて条件に入る症例は登録をしていただければと思います。

武富：倫理委員会の承認前に治療した症例はまずいですよね？

國土：そうですね。基本的には倫理委員会の承認後に治療された症例が対象ということになります。

山田（大阪成人医療センター）：うちはまだ RCT もコホートも登録できていません。倫理委員会承認後の受診例が 33 例。1/3 は 3cm を超えていてダメ。適格となるのは 12 例で、このうち内科が無理といった症例が 4 例。外科が 2 例。のこりは半分ということになりますが、結局アレルギーなどで脱落していつて study の話ができるまで残る症例がまだいないという状況です。1 例やっとうりそうな症例がありますのでがんばりたいと思います。

久保（大阪市立大）：うちは紹介で外来に来られた患者で 3cm³ 個以内が 8 例。3 例は穿刺困難。5 例のうち 1 例が RCT、3 例がコホート。最近感じるのは、入るのかわからないままに他の科に紹介になっている症例などがありますから、RCT にせよコホートにせよ脱落がないように紹介患者の記録を残すことが重要なと想着ております。

恵荘（大阪赤十字病院）：大崎の代理で参りました。RCT はまだありませんがコホートは順調で 8 例目を本

日登録したところでは。

國土：大阪赤十字病院は非常に症例数が多いので期待しております。先生方に紹介される先生方にも是非 inform をお願いしたいと思います。

工藤（近畿大学）：近畿大学では倫理委員会を通るのが結構遅くて、1月だったかと思いますが、それでも CRC が全例チェックをしてくれているので RCT が 1 例、コホートが 2 例といった状況です。うちは RFA を受けたいと内科を受診する症例が多いので、切除を視野に含めて話をするのがなかなか難しいところなのですが、症例は漏れがないようにしたいと思っています。

田浦（京都大学）：

うちも漏れはないと思いますが、紹介されてくる症例が他院で治療を受けたややこしい症例が多く、コホート・RCT の要件を満たす症例が 2 例くらいしかありません。そのうち一人は外科に紹介されてきたのですが、RCT の話をしたらコホートの RFA を希望されて、もう一つは内科の先生が切ってくれないかと外科に送ってきた症例がいやこれは RCT でということで登録を目指しているところでは。なかなか思うようにならないというのが現状なのですが、この流れで行くとコホートに入るのは大部分が RFA なんじゃないかと思うのですが、98 例の比率はどのようになっていますか？

長谷川：そこはまだ集計しておりません。

國土：次回までの宿題にさせていただきたいと思います。

中山（日本大学）：

高山の代理で来ています。先日 RCT に 1 例登録させていただきました。シャトルを始めてさわってみると Windows をつかっている人であれば簡単に扱えるので困難ではないという印象です。今回の症例は典型的な症例だったのですが、Early phase で染まりのない疑い病変をどのように扱うかについて長谷川先生にお伺いしたのですが、そうした途中で出てきた疑問点を一覧にみられるようなものがあるとよいかなと思います。

齋藤（東京女子医大）：

いまのところコホートが 3 例。RCT はまだなく、1 例お話し中です。

うちはむしろ外科の方が肝機能のよい症例が多くて、内科にくるのは 80 歳以上や腎機能のわるい症例などが多くなかなか適格症例がないのが現状です。

國土：除外例もぜひカウントをおねがいしたいと思います。

有井（東京医科歯科大学）：うちはコホートを一番最初に 1 例内科から入れてそのあと全く登録できていません。ラジオ波は無理ということで外科にくるのがほとんどの症例なので、我々の施設も登録の見通しはあまりよくないかなと思っています。コホートのやりかたについてはあとでもう一回教えてもらって漏れがないか確認をと思います。

赤羽（東京大学放射線科）：

放射線科でお手伝いしています。宣伝を頑張りたいと思います。

松山（東京大学生物統計科）：

統計的な側面でサポートさせていただいております。

現時点では症例数のアップを目指すしかないと考えております。

椎名（東京大学消化器内科）：

私たちのところは RCT を 4 例。ただ最近まったく未治療で紹介されてくる患者が減っていきまして、なかなか適格となる症例が少ないというのが現状です。

望月（山梨県立中央病院）：

代理で出席しております。本日のみなさまのお話を小俣に申し伝えたいと思います。宜しくお願いします。

小菅（国立がんセンター）：

がんセンターはこの study の前身みたいなことをやって頓挫したということがありますので今回は相談役みたいなことで参加しています。この study の難しさは誰もがわかっているところですが癌臨床研究の資金という側面からみると今後にも影響しますのでなんとかコホートに流れずに RCT をやりとげていただきたいと思います。

幕内（日赤医療センター）：先週も適格と思われた症例が一人いて患者さん本人もいいと言ったのだけど、CT ではかったら 3cm ちょっどこえてると。なかなかむずかしいですね。なるべくがんばって沢山出したいと思っています。

大塚（東邦大学）：金子先生の代理です。うちは内科と協力して週 1 回カンファレンスで症例検討しており、RCT を 1 例、コホート 1 例を登録させていただいています。コホートに関しては治療後登録が可能ということですので早急に確認して登録させていただきたいと思います。

住野（東邦大学）：

RCT 1 例のあとがなかなか進まないのですが、説明のコツがあるとすれば教えていただきたいなと思ってきました。印象として説明のときに外科と内科を並べて説明をしてしまうとどうしても患者さんは RFA を選択しちゃうんですね。コホートに関しては少し廻りがきくということですのでやってみようとおもいます。ただ新患がここ 2 カ月ぱたっとない。

國土：新患が減っているということは日本全体の傾向のようです。

高橋（筑波大学）：大河内の代理の高橋です。RCT を 2 例登録させていただきました。今後も頑張っていきたいと思っています。

福田（筑波大学）：うちはあまり人数が多くないのですが、大学病院という性質なのか簡単な症例が来ない印

象があります。ある程度すすんでしまった症例が多いと感じます。先日ラジオ波目的で紹介になった患者に実際は手術とラジオのどっちがいいかは分からないんだ。僕自身実際はどっちがいいのか知りたいんだと説明したところ、じゃあと言って RCT に入ってくれた症例がありました。そういう説明の仕方もあるかも知れません。

國土：なるほど。そういうやり方もありますね。

宮川（信州大学）：うちは RCT が 1 例です。内科の先生と協力して RCT をがんばっていきたいと思います。

一條（信州大学）：田中の代理です。宮川先生がおっしゃったようにうちは RCT を 1 例入れました。外科とは協力体制をとっていてラジオは可能かどうかということが私の方へ連絡が入ることになっている。なんとか登録症例数を増やしたいと思う。

高村（金沢大学）：太田の代理です。うちは肝臓センターという組織をもっており、本日来ておられる山下先生が窓口になっておりますので他の施設よりはやりやすいかなと思います。RCT に参加してみようと思うのは、責任が重いなど痛感するということです。局所再発、合併症を起こすまいといういい意味でプレッシャーをかけてもらっていると思います。

山下（金沢大学）：金子の代理で参りました。うちはほぼ全例内科でスクリーニングし、該当症例は外科とのカンファで決めていますので漏れはないと思います。

河田（大阪市立大学）：本日は実務を担当する岩井と参加しています。先ほど何名かの先生がおっしゃったように内科としては先に治療をされてしまっている進行例の紹介が多いのでなかなか難しいなと感じています。

岩井（大阪市立大学）：はじめてこの会議に参加させていただきました。これまでは外科の久保先生のところで 4 例登録されておりますので我々も頑張っていきたいと思っています。

居村（徳島大学）：島田の代理で参りました。症例はそれほど多くはないですが地方から 1 例登録を目指したいと思います。

玉木（徳島大学）：いま現在当科では RCT が 1 例という状況です。内科で肝炎の段階からずっと見ている患者で肝癌ができた症例ではそのまま内科で見てもらえないかという申し出が多いので難しい面もあると感じています。紹介例は進行例が多いというのも他の先生と同感です。

山口（産業医大）：うちも今入りそうな症例がありますのでぜひ内科と協力して 1 例登録を目指したいと思います。

原田（産業医大）：現在 RCT が 1 例、コホート 1 例です。うちも進行例が多い印象です。条件に当てはまっても場所が悪くて RFA で焼けないといった場合にも出会います。ちょっと質問なのですが、CT で確定診断がつかずに生検で moderate と診断されてしまった場合はどう扱えばよいのでしょうか？

長谷川：前回の京都での症例検討会でも話が出たと思いますが、適格症例の判断は画像所見でやることになったと思います。ですので、生検で先に分かってしまった症例は基本的に入らないということになります。

石河（熊本大学）：馬場の代理です。うちは初発のおとなしい症例が少なく、内科の先生と協力しながらやっています。初発は全例 CT angio と EOB-MRI を撮るので結構 multi にみつかってしまって難しいものが多いです。

田中（熊本大学）：佐々木の代理です。うちは RCT が 1 例、内科の方でコホート 4 例という状況です。RCT は RFA ということで入ってきたが入院のあとで話をするとどちらでもよいですということで入れた症例です。

國土：ありがとうございました。それでは討議事項に入りたいと思います。

長谷川：問題点として RCT の登録数促進をどうするかということがあるわけですが、第 2 回目の班会議でお話したこととしては、ご覧のようなものが挙げられます。

まず宣伝についてですが、患者団体への啓蒙活動として現在東京肝臓友の会を斎藤先生にご紹介頂き講演会のようなものができないかを打診中です、肝臓友の会というのはホームページを見ますと結構大きな組織で東京以外にもあるようですので、東京以外でもできるのではないかと思います。

國土：斎藤先生。これについて補足等ございますか？

斎藤：全国にこのような組織がありますので各地方でそれぞれ先生方宣伝していただければいいのではないかと思います。

國土：これについて他にご意見のある先生方は・・・

工藤：肝臓学会の肝癌撲滅運動というのがありますよね。あれは各県責任者が必ずいて市民公開講座をすることになっています。その時は必ず肝臓友の会の公演ももらうんですね。そうしますと友の会の会報にも載るし、講師の先生に SURF の話をしてもらおうとよいかもしれないですね。

國土：貴重な意見をありがとうございます。SURF は肝臓学会の認定研究ですので、そういうやり方を導入しやすいですね。ぜひ参考にさせていただきたいと思います。

長谷川：次にこれは大橋先生からの提案ですが、コールセンターを設置したらどうか。これはデータセンターに既存のシステムがあって、治験・臨床研究に関する情報提供等を行っている部署です。2007 年に開設されて回線が 4 本ある。9 時から 17 時までやっているようです。こういったものを利用できると宣伝にもなってよりよいかとも思っております。

早瀬さん：患者団体に番号をお知らせすることができれば仲介ができるかなと思います。

長谷川：肝臓友の会の HP には相談数の記載もあって1年間に1,124件の相談があるようです。肝癌についての相談は232件。東京以外からも問い合わせが来るようです。特段に費用が発生するわけでもありませんので検討してみたいと考えます。

國土：これについて意見はありますか？こういったことも知らなかったものですからいろいろと工夫をしてやってみようと思います。

長谷川：この他にもインターネットを使っての宣伝ということでバナーをつくり、学会などのホームページに張ってもらおうと思っています。またもう一つ大橋先生に言われたのは、取材をしてもらったらどうかと。マスコミ関係では第2回の検討会以降11月に秋葉原で行った市民公開講座のことがお配りした資料のように日経メディカルに掲載されました、また医師向けの啓蒙活動としてインターネットを用いた宣伝や原稿執筆の依頼も来始めておりますのでさらに進めていく予定であります。

長谷川：次に倫理委員会の承認状況ですが、倫理委員会の承認施設は現時点で70施設 82%に到達しております。この数であれば年間200例が目標ですので各施設3例入れていただければと思います。なかなか難しいのは重々承知ではありますがこの数をまずは目標にしていきたいと思います。

國土：一例一例の積み重ねが大切だと感じます。今後ともご協力をお願い致します。

長谷川：班会議について、今年度はこの3回目で終わりとしします。来年度は6月くらいに開きたいと思いますのでぜひ参加をお願い致します。

症例検討会については第二回を企画中で、7月9日、肝癌研究会の会期中に行う予定であります。またご連絡差し上げます。

また、症例の登録状況は毎月一度各施設にメールでご連絡しておりましたが、HPにもアップする予定です。またこれまでに使用したスライドのファイルをHPに掲載したいと思いますので、先生方が講演される際に一部でもご利用頂けると幸いに存じます。

長谷川：インセンティブについてはなかなか難しいところがありますが、先ほども説明しましたようにRCT登録施設から新たに16名の先生にも参加をお願いしまして研究分担者を37名に増員しました。

國土：厚生労働科研が続いている間は、研究分担者になってもらうということでもまずは対応したいと思います。並行して企業から寄付を集めることはできないということがあるようですのでその辺に関しましては検討をしていきたいと考えております。何か意見のある先生方はいらっしゃいますでしょうか？

田浦：SURFの参加施設に入らない施設で新規症例を扱っている施設が沢山あるのではないかとと思うのですが、そういう施設への紹介を促す啓蒙活動をしなくてもよいのではないのでしょうか？

國土：なかなか広く啓蒙することが難しいのが現状ではありますが、各施設の先生方にそれぞれの関連施設へ宣伝をお願いしたいと思います。

それでは第3回の班会議をこれで終えさせていただきたいと思います。本日はご参加いただきありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します。

III. 研究成果の刊行に関する一覧表

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishizawa T, Mise Y, Aoki T, Hasegawa K, Beck Y, Sugawara Y, <u>Kokudo N.</u>	Surgical technique: new advances for expanding indications and increasing safety in liver resection for HCC : The Eastern perspective.	J Hepatobiliary Pancreat Surg		Epub ahead of print	Nov 19, 2009
Kyoden Y, Imamura H, Sano K, Beck Y, Sugawara Y, <u>Kokudo N.</u> , Makuuchi M.	Value of prophylactic abdominal drainage in 1269 consecutive cases of elective liver resection.	J Hepatobiliary Pancreat Surg		Epub ahead of print	Aug 29, 2009
Yamamoto K, Imamura H, Matsuyama Y, Hasegawa K, Beck Y, Sugawara Y, Makuuchi M, <u>Kokudo N.</u>	Significance of alpha-fetoprotein and des-gamma-carboxy prothrombin in patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy.	Ann Surg Oncol	16 (10)	2795-2804	2009
Ishizawa T, Fukushima N, Shibahara J, Masuda K, Tamura S, Aoki T, Hasegawa K, Beck Y, Fukayama M, <u>Kokudo N.</u>	Real-time identification of liver cancers by using indocyanine green fluorescent imaging.	Cancer	115 (11)	2491-2504	2009
<u>Kokudo N.</u> , Makuuchi M.	Evidence-based clinical practice guidelines for hepatocellular carcinoma in Japan: the J-HCC guidelines.	J Gastroenterol	44 Suppl 19	119-121	2009
Seyama Y, <u>Kokudo N.</u>	Assessment of liver function for safe hepatic resection.	Hepatol Res	39 (2)	107-116	2009
Midorikawa Y, Yamamoto S, Tsuji S, Kamimura N, Ishikawa S, Igarashi H, Makuuchi M, <u>Kokudo N.</u> , Sugimura H, Aburatani H.	Allelic imbalances and homozygous deletion on 8p23.2 for stepwise progression of hepatocarcinogenesis.	Hepatology	49 (2)	513-522	2009
Inoue Y, Hasegawa K, Ishizawa T, Aoki T, Sano K, Beck Y, Imamura H, Sugawara Y, <u>Kokudo N.</u> , Makuuchi M.	Is there any difference in survival according to the portal tumor thrombectomy method in patients with hepatocellular carcinoma?	Surgery	145 (1)	9-19	2009
Ikeda M, Hasegawa K, Sano K, Imamura H, Beck Y, Sugawara Y, <u>Kokudo N.</u> , Makuuchi M.	The vessel sealing system (LigaSure) in hepatic resection: a randomized controlled trial.	Ann Surg	250 (2)	199-203	2009
Ishizawa T, Hasegawa K, Tsuno NH, Tanaka M, Mise Y, Aoki T, Imamura H, Beck Y, Sugawara Y, Makuuchi M, Takahashi K, <u>Kokudo N.</u>	Predeposit autologous plasma donation in liver resection for hepatocellular carcinoma: toward allogenic blood-free operations.	J Am Coll Surg	209 (2)	206-214	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishizawa T, Hasegawa K, <u>Kokudo N</u> , Sano K, Imamura H, Beck Y, Sugawara Y, Makuuchi M.	Risk factors and management of ascites after liver resection to treat hepatocellular carcinoma.	Arch Surg	144 (1)	46-51	2009
Takayama T, <u>Makuuchi M</u> , Hasegawa K.	Single HCC smaller than 2 cm: surgery or ablation?: Surgeon's perspective.	J Hepatobiliary Pancreat Surg		Epub ahead of print	Nov.21, 2009
Hasegawa K, Kokudo N, Sano K, <u>Makuuchi M</u> .	Single HCC between 2 and 5 cm: the grey zone: Surgeon's perspective.	J Hepatobiliary Pancreat Surg		Epub ahead of print	Nov 5, 2009
Yamamoto K, Imamura H, Matsuyama Y, Hasegawa K, Beck Y, Sugawara Y, <u>Makuuchi M</u> , Kokudo N.	Significance of alpha-fetoprotein and des-gramma-carboxy prothrombin in patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy.	Ann Surg Oncol	16 (10)	2795-2804	2009
Ikeda M, Hasegawa K, Sano K, Imamura H, Beck Y, Sugawara Y, Kokudo N, <u>Makuuchi M</u> .	The vessel sealing system (LigaSure) in hepatic resection: a randomized controlled trial.	Ann Surg	250 (2)	199-203	2009
Clavien PA, Barkun J, de Oliveira ML, Vauthey JN, Dindo D, Schulick RD, de Santibanes E, Pekolj J, Slankamenac K, Bassi C, Graf R, Vonlanthen R, Padbury R, Cameron JL, <u>Makuuchi M</u> .	The Clavien-Dindo classification of surgical complications: five-year experience.	Ann Surg	250 (2)	187-196	2009
Ishizawa T, Hasegawa K, Tsuno NH, Tanaka M, Mise Y, Aoki T, Imamura H, Beck Y, Sugawara Y, <u>Makuuchi M</u> , Takahashi K, Kokudo N.	Predeposit autologous plasma donation in liver resection for hepatocellular carcinoma: toward allogenic blood-free operations.	J Am Coll Surg	209 (2)	206-214	2009
Kokudo N, <u>Makuuchi M</u> .	Evidence-based clinical practice guidelines for hepatocellular carcinoma in Japan: the J-HCC guidelines.	J Gastroenterol	44 Suppl 19	119-121	2009
Goto E, Tateishi R, Shiina S, Masuzaki R, Enooku K, Sato T, Ohki T, Kondo Y, Goto T, Yoshida H, <u>Omata M</u> .	Hemorrhagic complications of percutaneous radiofrequency ablation for liver tumors.	J Clin Gastroenterol		in press	
Masuzaki R, Yoshida H, Tateishi R, <u>Omata M</u> .	Staging systems: is there a surgical staging and a medical one? : Hepatologist's perspective.	J Hepatobiliary Pancreat Surg		in press	

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ohki T, Tateishi R, Goto E, Sato T, Masuzaki R, Imamura J, Goto T, Kanai F, Kato N, Shiina S, Yoshida H, Kawabe T, <u>Omata M.</u>	Influence of anti-HBc seropositivity on the risk of hepatocellular carcinoma in HCV-infected patients after adjusting for confounding factors.	J Viral Hepat	17	91-97	2010
Kondo Y, Yoshida H, Tomizawa Y, Tateishi R, Shiina S, Tagawa K, <u>Omata M.</u>	Percutaneous radiofrequency ablation of hepatocellular carcinoma in 14 patients undergoing regular hemodialysis for end-stage renal disease.	Am J Roentgenol	193	964-969	2009
Masuzaki R, Yamashiki N, Sugawara Y, Yoshida H, Tateishi R, Tamura S, Kaneko J, Hasegawa K, Kokudo N, Makuuchi M, <u>Omata M.</u>	Assessment of liver stiffness in patients after living donor liver transplantation by transient elastography.	Scand J Gastroenterol	25	1-6	2009
Masuzaki R, Tateishi R, Yoshida H, Goto E, Sato T, Ohki T, Imamura J, Goto T, Kanai F, Kato N, Ikeda H, Shiina S, Kawabe T, <u>Omata M.</u>	Prospective risk assessment for hepatocellular carcinoma development in patients with chronic hepatitis C by transient elastography.	Hepatology	49	1954-1961	2009
Ohki T, Tateishi R, Shiina S, Goto E, Sato T, Nakagawa H, Masuzaki R, Goto T, Hamamura K, Kanai F, Yoshida H, Kawabe T, <u>Omata M.</u>	Visceral fat accumulation is an independent risk factor for hepatocellular carcinoma recurrence after curative treatment in patients with suspected NASH.	Gut	58	839-844	2009
Sato T, Tateishi R, Yoshida H, Ohki T, Masuzaki R, Imamura J, Goto T, Kanai F, Obi S, Kato N, Shiina S, Kawabe T, <u>Omata M.</u>	Ultrasound surveillance for early detection of hepatocellular carcinoma among patients with chronic hepatitis C.	Hepatol Int	4	544-550	2009
Tateishi R, Shiina S, Ohki T, Sato T, Masuzaki R, Imamura J, Goto E, Goto T, Yoshida H, Obi S, Sato S, Kanai F, Yoshida H, <u>Omata M.</u>	Treatment strategy for hepatocellular carcinoma: expanding the indications for radiofrequency ablation.	J Gastroenterol	44	S142-S146	2009
Yamashiki N, Sugawara Y, Tamura S, Kaneko J, Matsui Y, Togashi J, Kokudo N, <u>Omata M.</u> , Makuuchi M.	Double-dose double-phase use of second generation hepatitis B virus vaccine in patients after living donor liver transplantation: Not an effective measure in transplant recipients.	Hepatol Res	39	7-13	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamashiki N, Sugawara Y, Tamura S, Kaneko J, Matsui Y, Togashi J, Ohki T, Yoshida H, <u>Omata M</u> , Makuuchi M, Kokudo N.	Noninvasive estimation of hepatic steatosis in living liver donors: usefulness of visceral fat area measurement.	Transplantation	88	575-581	2009
Watanabe S, Enomoto N, <u>Koike K</u> , Izumi N, Takikawa H, Hashimoto E, Moriyasu F, Kumada H, Imawari M, PERFECT STUDY GROUP.	Prolonged treatment with PEG-IFN alpha-2b and ribavirin can improve SVR in chronic hepatitis C genotype 1 patients with late response in a clinical real-life setting in Japan.	Hepatol Res		Epub ahead of print	Sep 25, 2009
Ono S, Fujishiro M, Hirano K, Niimi K, Goto O, Kodashima S, Yamamichi N, <u>Koike K</u> .	Retrospective analysis on the management of anticoagulants and antiplatelet agents for scheduled endoscopy.	J Gastroenterol		Epub ahead of print	Sep 10, 2009
Moriya K, Miyoshi H, Tsutsumi T, Shinzawa S, Fujie H, Shintani Y, Yotsuyanagi H, Moriishi K, Matsuura Y, Suzuki T, Miyamura T, <u>Koike K</u> .	Tacrolimus ameliorates metabolic disturbance and oxidative stress caused by hepatitis C virus core protein: Analysis using mouse model and cultured cells.	Am J Pathol		Epub ahead of print	Sep 3, 2009
Saito R, Kumita W, Sato K, Chida T, Okamura N, Moriya K, <u>Koike K</u> .	Association of plasmid-mediated quinolone resistance determinants with aminoglycoside resistance determinants among oxyimino-cephalosporin-resistant Escherichia coli and Klebsiella oxytoca clinical isolates in Japan.	Int J Antimicrob Agents		Epub ahead of print	Jun 26, 2009
Yoshino Y, Kitazawa T, Tatsuno K, Ota Y, <u>Koike K</u> .	Cryptococcal pleuritis containing a high level of adenosine deaminase in a patient with AIDS: a case report.	Respiration		Epub ahead of print	Apr 29, 2009
Ode T, Saito R, Kumita W, Sato K, Okugawa S, Moriya K, <u>Koike K</u> , Okamura N.	Analysis of plasmid-mediated multidrug resistance in Escherichia coli and Klebsiella oxytoca isolates from clinical specimens in Japan.	Int J Antimicrob Agents	34	347-350	2009
Tsutsumi T, Matsuda M, Aizaki H, Moriya K, Miyoshi H, Fujie H, Shintani Y, Yotsuyanagi H, Miyamura T, Suzuki T, <u>Koike K</u> .	Proteomics analysis of mitochondrial proteins reveals overexpression of a mitochondrial protein chaperone, prohibitin, in cells expressing hepatitis C virus core protein.	Hepatology	50	378-386	2009
Yotsuyanagi H, Kikuchi Y, Tsukada K, Nishida K, Kato M, Sakai H, Takamatsu J, Hige S, Chayama K, Moriya K, <u>Koike K</u> .	Chronic hepatitis C in patients coinfecting with human immunodeficiency virus in Japan: a retrospective multicenter analysis.	Hepatol Res	39	657-663	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Ishizaka Y, Ishizaka N, Tani M, Toda A, Toda EI, <u>Koike K</u> , Nagai R, Yamakado M.	Association between changes in obesity parameters and incidence of chronic kidney disease in Japanese individuals.	Kidney Blood Press Res	32	141-149	2009
Murata M, Matsuzaki K, Yoshida K, Sekimoto G, Uemura Y, Sakaida N, Fujisawa J, Seki T, <u>Koike K</u> , Okazaki K.	Hepatitis B virus X protein shifts hepatic Smad3-mediated signaling from tumor-suppression to oncogenesis in chronic hepatitis B.	Hepatology	49	1203-1217	2009
Kumita W, Saito R, Sato K, Ode T, Moriya K, <u>Koike K</u> , Chida T, Okamura N.	Molecular characterizations of carbapenem and ciprofloxacin resistance in clinical isolates of Pseudomonas putida.	J Infect Chemother	15	6-12	2009
Hongo M, Ishizaka N, Furuta K, Yahagi N, Saito K, Sakurai R, Matsuzaki G, <u>Koike K</u> , Nagai R.	Administration of angiotensin II, but not catecholamines, induces accumulation of lipids in the rat heart.	Eur J Pharmacol	604	87-92	2009
Yanagimoto S, Tatsuno K, Okugawa S, Kitazawa T, Tsukada K, <u>Koike K</u> , Kodama T, Kimura S, Shibasaki Y, Ota Y.	A single amino acid of toll-like receptor 4 that is pivotal for its signaltransduction and subcellular localization.	J Biol Chem	284	3513-3520	2009
<u>Shiina S</u> .	Ablation therapies for hepatocellular carcinoma	Hepatology Research		in press	
<u>Shiina S</u> .	Image-guided percutaneous ablation therapies for hepatocellular carcinoma.	J Gastroenterol	44	122-131	2009
Ohki T, Tateishi R, <u>Shiina S</u> , Goto E, Sato T, Nakagawa H, Masuzaki R, Goto T, Hamamura K, Kanai F, Yoshida H, Kawabe T, Omata M.	Visceral fat accumulation is an independent risk factor of hepatocellular carcinoma recurrence after curative treatment in patients with suspected NASH.	Gut	58	839-844	2009
Masuzaki R, Tateishi R, Yoshida H, Goto E, Sato T, Ohki T, Imamura J, Goto T, Kanai F, Kato N, Ikeda H, <u>Shiina S</u> , Kawabe T, Omata M.	Prospective risk assessment for hepatocellular carcinoma development in patients with chronic hepatitis C by transient elastography.	Hepatology	49	1793-1794	2009
Okada K, Matsuo F, Uno S, <u>Ohashi Y</u> . et al	Effectiveness of An Acellular Pertussis Vaccine in Japanese Children During A Non-Epidemic Period: A Matched Case-Control Study.	Epidemiology and Infection	137	124-130	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Miura K, Nakagawa H, Harada A, <u>Ohashi Y</u> et al	Four Blood Indexes and the Risk of Stroke and Myocardial Infarction in Japanese Men and Women A Meta-Analysis of 16 Cohort Studies.	Circulation	119	1892-1898	2009
Kodama S, Saito K, Tanaka S, <u>Ohashi Y</u> et al	Cardiorespiratory Fitness as a Quantitative Predictor of All-Cause Mortality and Cardiovascular Events in Healthy Men and Women: A Meta-analysis.	JAMA	301 (19)	2024-2035	2009
Kondo-Endo K, Nakagawa H, Katsunuma T, <u>Ohashi Y</u> et al	Development and Validation of a Questionnaire Measuring Quality of Life in Primary Caregivers of Children with Atopic Dermatitis (QPCAD).	British Journal of Dermatology	161	617-625	2009
Ninomiya T, Kiyohara Y, Tokuda Y, <u>Ohashi Y</u> et al	Impact of Kidney Disease and Blood Pressure on the Development of Cardiovascular Disease: An overview From the Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study.	Circulation	118	2694-2701	2009
<u>Ohashi Y</u> , Watanabe T, Sano M, Koyama H. et al	Efficacy of Oral Tegafur-Uracil(UFT) as Therapy as Compared with Classical Cyclophosphamide, Methotrexate, and 5-Fluorouracil(CMF) in Early Breast Cancer: a Pooled Analysis of Two Randomized Controlled Trials (N-SAS-BC 01 Trial and CUBC Trial).	Breast Cancer Res Treat	119	633-641	2009
Matsumoto T, Hagino H, Shiraki M, <u>Ohashi Y</u> , et al	Effect of Daily Oral Minodronate on Vertebral Fractures in Japanese Postmenopausal Women with Established Osteoporosis: a Randomized Placebo-Controlled Double-Blind Study	Osteoporos Int	20	1429-1437	2009
Yasunaga H, <u>Matsuyama Y</u> , Ohe K (Japan Surgical Society)	Effects of hospital and surgeon volumes on operating times, postoperative complications, and length of stay following laparoscopic colectomy.	Surgery Today	39 (11)	955-961	2009
Ueno H, Kosuge T, <u>Matsuyama Y</u> , Yamamoto J, Nakao A, Egawa S, Doi R, Monden M, Hatori T, Tanaka M, Shimada M, Kanemitsu K.	A randomized phase III trial comparing gemcitabine with surgery-only in patients with resected pancreatic cancer: Japanese Study Group of Adjuvant Therapy for Pancreatic Cancer.	British Journal of Cancer	101	908-915	2009
Yasunaga H, Nishii O, Hirai Y, Ochiai K, <u>Matsuyama Y</u> , and Ohe K.	Impact of surgeon and hospital volumes on short-term postoperative complications after radical hysterectomy for cervical cancer.	The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research	35	699-705	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamamoto K, Imamura H, Matsuyama Y, Hasegawa K, Beck Y, Sugawara Y, Makuuchi M, Kokudo N.	Significance of alpha-fetoprotein and des-gamma-carboxy prothrombin in patients with hepatocellular carcinoma undergoing hepatectomy.	Annals of Surgical Oncology	16	2795-2804	2009
Yasunaga H, Matsuyama Y, Ohe K; Japan Surgical Society.	Volume-outcome relationship in rectal cancer surgery: a new perspective.	Surgery Today	39 (8)	663-668	2009
Yasunaga H, Matsuyama Y, Ohe K; Japan Surgical Society.	Effects of hospital and surgeon case-volumes on postoperative complications and length of stay after esophagectomy in Japan.	Surgery Today	39 (7)	566-571	2009
Yasunaga H, Tsuchiya K, Matsuyama Y, Ohe K.	Analysis of factors affecting operating time, postoperative complications, and length of stay for total knee arthroplasty: nationwide web-based survey.	Journal of Orthopaedic Science	14 (1)	10-16	2009
Yasunaga H, Tsuchiya K, Matsuyama Y, Ohe K.	High-volume surgeons in regard to reductions in operating time, blood loss, and postoperative complications for total hip arthroplasty.	Journal of Orthopaedic Science	14 (1)	3-9	2009
Akai H, Kiryu S, Takao H, Tajima T, Shibahara J, Imamura H et al.	Efficacy of double-arterial phase gadolinium ethoxybenzyl diethylenetriamine pentaacetic acid-enhanced liver magnetic resonance imaging compared with double-arterial phase multi-detector row helical computed tomography.	J Comput Assist Tomogr	33 (6)	887-892	2009
Amemiya S, Akahane M, Aoki S, Abe O, Kamada K, Saito N et al.	Dynamic contrast-enhanced perfusion MR imaging with SPIO: a pilot study.	Invest Radiol	44 (9)	503-508	2009
Amemiya S, Aoki S, Akahane M, Ohtomo K.	F-18 Fluorodeoxyglucose positron emission tomography in a transitional meningioma.	Clin Nucl Med	34 (7)	462-463	2009
Furuta T, Maeda E, Akai H, Hanaoka S, Yoshioka N, Akahane M et al.	Hepatic segments and vasculature: projecting CT anatomy onto angiograms.	Radiographics	29 (7)	1-22	2009
Kiryu S, Takeuchi K, Shibahara J, Uozaki H, Fukayama M, Tanaka H et al.	Epstein-Barr virus-positive inflammatory pseudotumour and inflammatory pseudotumour-like follicular dendritic cell tumour.	Br J Radiol	82 (976)	e67-71	2009
Kunishima K, Takao H, Akahane M, Yoshioka N, Ohtomo K.	Safety of using iodized oil in chemoembolization for liver tumors in patients with previous adverse reactions to iodinated contrast media.	Clin Imaging	33 (5)	365-368	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Maeda E, <u>Akahane M</u> , Kiryu S, Kato N, Yoshikawa T, Hayashi N et al.	Spectrum of Epstein-Barr virus-related diseases: a pictorial review.	Jpn J Radiol	27 (1)	4-19	2009
Maeda E, <u>Akahane M</u> , Uozaki H, Kato N, Hayashi N, Fukayama M et al.	CT appearance of Epstein-Barr virus-associated gastric carcinoma.	Abdom Imaging	34 (5)	618 -625	2009
Masamoto Y, Imai Y, Seo S, <u>Akahane M</u> , Kurokawa M.	A case report of non-traumatic renal artery pseudoaneurysm due to chemotherapy for diffuse large B-cell lymphoma.	Ann Hematol	89	107 -108	2009
Takao H, Akai H, Tajima T, Kiryu S, Watanabe Y, Imamura H et al.	MR imaging of the biliary tract with Gd-EOB-DTPA: Effect of liver function on signal intensity.	Eur J Radiol		Epub ahead of print	Aug 31, 2009
<u>Hasegawa K</u> , Kokudo N, Sano K, Makuuchi M.	Single HCC between 2 and 5 cm: the grey zone : Surgeon's perspective.	J Hepatobiliary Pancreat Surg.		Epub ahead of print	Nov.5, 2009
<u>Hasegawa K</u> , Kokudo N.	Surgical treatment of hepatocellular carcinoma.	Surg Today	39 (10)	833 -843	2009
Gen Y, Yasui K, Zen K, Nakajima T, Tsuji K, Endo M, Mitsuyosi H, Minami M, Itoh Y, Tanaka S, Taniwaki M, <u>Arii S</u> , Okanou T, Yoshikawa T.	A novel amplification target, ARHGAP5, promotes cell spreading and migration by negatively regulating Rho A in Huh-7 hepatocellular carcinoma cells.	Cancer Letter	275	27-34	2009
Zen K, Yasui K, Nakajima T, Zen Y, Zen K, Gen Y, Mitsuyosi H, Mimami M, Mitsufuji S, Tanaka S, Itoh Y, Nakanuma Y, Taniwaki M, <u>Arii S</u> , Okanou T, Yoshikawa T.	ERK5 is a target for gene amplification at 17p11 and promotes cell growth in hepatocellular carcinoma by regulating mitotic entry.	Genes Chromosomes Cancer	48	109 -120	2009
Mahmut Y, Mizushima H, Mogushi K, Obulhasim G, Miyaguchi K, Inoue K, Nakahara I, Ohta T, Aihara A, Tanaka S <u>Arii S</u> , Tanaka H	Expression of Aurora B and their alternative variant forms in hepatocellular carcinoma and the adjacent tissue.	Cancer Sci	100	472 -480	2009
Tanaka S, Mogushi K, Yasen M, Noguchi N, Kudo A, Kurokawa T, Nakamura N, Inazawa J, Tanaka H, <u>Arii S</u>	Surgical contribution to recurrence –free survival in patients with macrovascular invasion-negative hepatocellular carcinoma.	J Am Coll Surg	208	368 -374	2009

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Sui S, Kudo A, Suematsu M, Tanaka S, Nakamura N, Ito K, <u>Arii S.</u>	Preservation solutions alter Mrp2-dependent bile flow in cold ischemic rat livers.	J Surg Res		in press	
Furuta M, Kozaki KI, Tanaka S, <u>Arii S.</u> , Imoto I, Inazawa J.	miR-124 and miR-203 are epigenetically silenced tumor-suppressive microRNAs in hepatocellular carcinoma.	Carcinogenesis		in press	
Aihara A, Tanaka S, Yasen M, Matsumura S, Mitsunori Y, Murakata A, Noguchi N, Kudo A, Nakamura N, Ito K, <u>Arii S.</u>	The selective Aurora B kinase inhibitor AZD1152 as a novel treatment for hepatocellular carcinoma.	J Hepatol	52	63-71	2010
Tanaka S, <u>Arii S.</u>	Medical treatments: in association or alone, their role and their future perspectives : Novel molecular-targeted therapy for hepatocellular carcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Surg		in press	
Tanaka S, Mogushi K, Yasen M, Noguchi N, Kudo A, Nakamura N, Ito K, Miki Y, Inazawa J, Tanaka H, <u>Arii S.</u>	Gene-expression phenotypes for vascular invasiveness of hepatocellular carcinomas.	Surgery		in press	
Katagiri S, Kotera Y, Takahashi Y, Ariizumi S, Yamamoto M, <u>Saito A.</u>	Long-term effects of postoperative Interferon therapy for patients with hepatitis C virus-related hepatocellular carcinoma.	J Tokyo Wom Med Univ	79	367-374	2009
米田有紀, 齋藤明子, 小宮朋子, 他	肝腫瘍と鑑別が困難であったHCV陽性副腎皮質癌の1例	肝臓	50	650-656	2009
小宮朋子, 齋藤明子, 米田有紀, 他	ペグインターフェロン α -2a単独投与にて全身性紅斑を認めたC型慢性肝炎の2症例	肝臓	50	565-570	2009
齋藤明子	肝癌の早期診断; エコー, CT, そして造影エコー	レジデント	2	78-83	2009
Yamazaki S, <u>Takayama T.</u> , Inoue K, Higaki T, Makuuchi M.	Simplified technique for one-orifice vein reconstruction in left-lobe liver transplantation.	Liver Transplantation	15 (1)	115-116	2009
Sugitani M, Aramaki O, Kikuchi K, Sheikh A, Oinuma T, Mamiya T, <u>Takayama T.</u> , Nemoto N.	Two cases of Primary Malignant Fibrous Histiocytoma of the Liver: Immunohistochemical Expression of Ezrin and its Relationship with Prognosis.	Acta Histochemica et Cytochemica	42 (3)	83-88	2009